令和８年度　鹿島台小学校学校経営グランドデザイン

学校教育目標

広い視野を持ち、心豊かに国際社会に生きる人になる

やさしく　かしこく　たくましく

国・市の施策等
- 学習指導要領　　・相模原市教育振興計画
- キャリア教育推進の手引
- 鵜野森中学校区<めざす 15 歳の子ども像>
  1 地域　　～人とつながり、感謝できる子～
  2 将来の夢　～将来に向かってがんばる子～
  3 主体性　　～自分で考え、失敗を恐れず挑戦する子～
- 人生100年時代の社会人基礎力(経済産業省)
  前に踏み出す力　考え抜く力　チームで働く力

本校児童の強み○と弱み●
- ○重点目標を意識して学校生活を送っている。
- ○異学年交流を通して刺激を受けながら成長している。
- ○全国学力・学習状況調査、学びの調査結果が、全国平均や市平均を上回っている。
- ●様々な場面で二極化の傾向が見られる。
- ●想像力に欠ける児童が一定数いる。
- ●学ぶ意義を見いだして学習に取り組めていない児童、失敗を恐れ、挑戦心が弱い児童が一定数いる。

令和８年度　めざす学校の姿
- 児童が心身ともに健康で安心できる学校
- 確かな学力と生きる力の伸長を図る学校
- 児童が自分の力を発揮できる学校
- 児童が周囲の仲間とともに成長できる学校
- 保護者、地域とともに児童の未来を見据え協働する学校

令和8年度　めざす児童の姿

自分から進んで考え、
人とつながり、
挑戦しようとする子

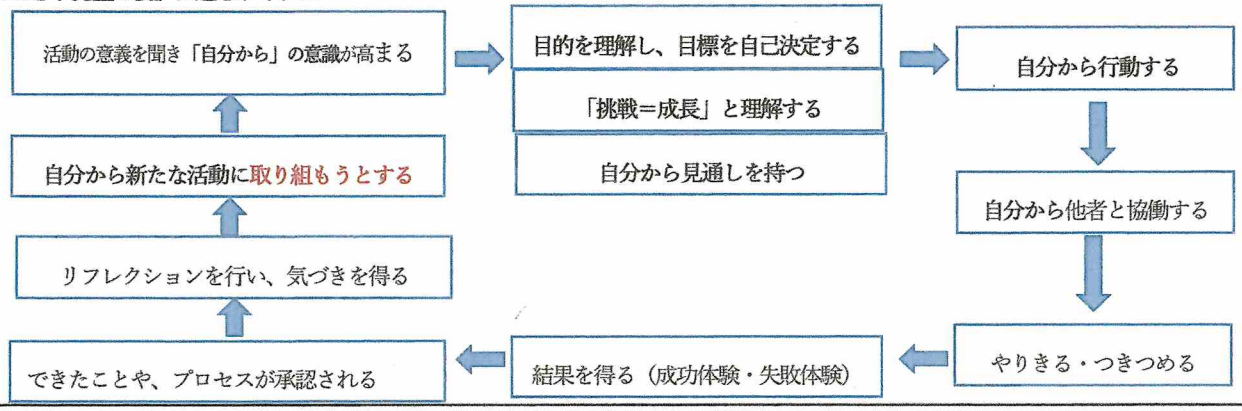
令和8年度　めざす教職員の姿
- 人間性豊かな教職員
- 児童に寄り添い良さを積極的に認める教職員
- 児童が主役と考え機会を作る教職員
- 指導力向上のために自己研鑽に励む教職員
- 児童を組織的に支援ができる教職員
- 自ら主体的に挑戦する教職員

令和８年度　重点目標　自分から進んで考え、人とつながり、挑戦する

「自分から進んで考え、人とつながり、挑戦しようとする姿」とは？

夢や成長のために進んで考え、自他の意思を尊重しながら他者と協働して、目の前の目標を達成しようとする姿、一歩前に踏み出す姿

「めざす児童の姿」に迫るサイクル



「めざす児童の姿」に迫るために

合い言葉　自分から進んでやってみよう！

学年・学級経営	学習指導	キャリア教育	特別活動	探究的な学び	児童指導	教師の姿勢
・重点目標を踏まえた学年目標、学級目標の設定 ・意図的・計画的で個性的な経営の実施 ・安心・安全な学級の風土づくり →挑戦の風土づくり ・一人ひとりの存在を尊重 →各自のよさの承認 ・生活習慣の定着 (挨拶・返事・後始末・廊下歩行)	・児童主体の活動 ・協働的な学びや個別最適な学び →設定・指導・評価 ・交換授業のあり方 (教科別・異学年) ・家庭学習の工夫	・キャリアパスポートの活用 ・キャリアカウンセリングの実施 ・キャリアの視点での授業改善 ・協働の場・挑戦の場づくり	・児童主体の活動 ・学校生活の見直し ・つながりが実感できる場の設定 ・異学年交流の実施	・児童主体の活動(責任の付与) ・実体験を伴う活動的な学習活動の設定 ・学習の過程の充実 ・結果に成就感や達成感を企図	・先行的・状態的な指導の提案と充実 ・児童の姿をもとにしたPDCA サイクル/OODA ループの展開 ・複眼的で、多面的・多角的な児童の見取り ・スピード感のある情報伝達 ・質・量ともに充実した情報共有	・積極的な自己発揮 ・児童の長所の発見と伸長 ・プロセスを価値付け(結果/出来栄えだけを評価しない ・児童の課題と成長の積極的な共有) ・児童との信頼関係の積極的な構築(遊び・会話など) ・保護者との積極的な信頼関係の構築(雑談・相談など

令和８年度　めざす児童の姿　指標

	低学年	中学年	高学年
主体性	気づいたことや気づかされたことは、進んで取り組むことができる。	正しい判断のもと、自分から行動することができる。	責任をもって、自分で判断し、自分から行動することができる。
	進んですべきこと（正しいこと）を知らせた上で、自主性を育む。	**善悪、道徳心を根底にした正しい判断力を涵養し、徐々に主体性を育む。**	**結果が見通せたとしても、主体性の成長を意識し、勇気づける。**
挑戦心	失敗を恐れず挑戦することができる。	課題解決や目標に向けて、挑戦することができる。	中学年までの指標に加えて、自分自身を成長させようと意識した上で、挑戦することができる。
つながる力	自分の意見をしっかりと伝え合いながら、合意形成を図ろうとすることができる。	自他の意見を比べながら、お互いの良さを見出して、合意形成を図ることができる。	自他の意見を尊重し合い、合意形成を図ることができる。
	いつでも、どこでも、誰とでもつながろうと思うことができる。		夢や目標を意識して、いつでも、どこでも、誰とでもつながろうと思うことができる。

主体性について

「主体性」とは、自ら考え判断し、自ら責任を持って行動する態度や様子のことを指す。

具体的な子どもの姿としては、

① 周りに流されず自ら考え、自ら行動する

② 失敗を恐れない（自分で判断し「大丈夫」と思うので、自分を信じることができる）

③ 自分の価値は自分で決める

④ 自他の幸せにつながる

「主体性」と「つながる力」は「挑戦心」をもって行動するために欠くことのできない力であると考える。

そのために、

◎「話しても大丈夫」「受け止めてもらえる」という安心できる場づくりが大切。

◎「流されやすい」「指示待ち」といった傾向は、自分の考えを持ち、伝える経験が不足していることが一因として考えられる。一人ひとりの児童が、まず自分の考えを持つことからスタートし、少人数での話し合いなどの場づくりを積極的に行う。

◎日々の生活や学習の中で、選択と結果を結びつける経験が必要。小さな選択を自分で決める場面を増やし、「自分で決めたことをやり遂げた」という実感を持たせる。

◎主体性は、単なる「自分勝手」ではなく「自分の考えを持ち、周囲と関わりながら行動する力」である。それを安心・信頼・経験の積み重ねによって少しずつ育てていく。

「挑戦」を実現させる仮説

⓪教師は安心・安全な環境を作る。「挑戦すること＝成長」を理解する。　①自分の“ちょっとドキドキ”を見つける。＊ドキドキ＝不安、緊張、未知

②ちょっとドキドキに自ら足を踏み入れる。　③自分の行動を振り返り、気づきを得る。（リフレクション）　④自分の成長を実感する。

⑤（成功しても、失敗しても）次の挑戦に向かう。